

会員のひろば

スクープ記事の思い出

島田 一



「島田だけには教えるな」と言ったのは後にミスター円と称される当時の大蔵省榊原国債課長である。私はスクープ記者として鳴らしており、一方の榊原国債課長は日本国債に入札制度を導入すべく極秘に検討。米国とも示し合わせ日米同時発表を行った。その一時間前、事前のスクープを恐れたミスター円は私を大蔵省の小部屋に軟禁。私はスクープの機会を封じられたのである。

私はもう30数年、金融の専門紙の記者をしている。より正確に言うと、最初の5年が記者で、その後の5年が記者兼編集長、そして残りの20数年間が記者兼社長である。また、金融の専門紙をこれまた正確に言うと、金融・資本市場の専門紙であって、金利、外為、債券、株、証券化商品、そして金融制度問題などのジャンルを幅広く取材してきた。

その間、さまざまな人と出会い、本当にたくさんのスクープをさせて頂き、ある意味で幸せ者といえるかもしれない。自分の会社を設立する前の10年間は、私が取材した後にはぺんぺん草も生えないと一般紙の記者から言われたほどで、当時の主要なニュースソースの一つであった大蔵省はクラブ詰めの一般紙の記者から「何で島田だけにスクープを教えるんだ」と、しばしば抗議されていたとのこと。もちろん、私が一般紙の記者よりも金融・資本市場に関する知識がダントツに深く、市場関係者とも広く深い交友関係があったからこそスクープが取れたからに他ならず、大蔵省が私だけを特別扱いにしていたわけではない。

星の数ほどあるスクープのなかで最も印象深いのは、やはり記者駆け出しの頃のものの。年齢の高い方はご記憶があると思うが、30数年前は規制金利といって今のように金利が自由化されておらず、日銀の公定歩合が上下するとそれに連動して一定の幅ですべての金利が上下した。その規制金利を国債の大量発行により自由化せざるを得なくなり、ある時、公定歩合と国債の金利を切り離して決定することになった。いわゆる長短分離である。この歴史的な出来事をスクープした確か翌々日

に朝日新聞が1面で追っかけてきてくれたことを今でも記憶している。

また、公定歩合といえは、世界的に有名なゼロ金利の解除を半年近く前にスクープ。これは、英国の金融専門誌フィナンシャル・タイムズが「ファイナンス・ファクシミリ新聞によれば日銀は夏にゼロ金利を解除する」と報道した。当時は今と違い金融政策の変更は半年ぐらいのタームで検討されていたため、長期的な金融政策の予想が可能であり、これ以外にもしばしば日銀の金融政策の変更をスクープさせて頂いた。日銀さんありがとう。

傑作なのは、これも随分と昔のことだが、三菱重工業が500億円の転換社債(CB)を発行することをスクープした時だ。もちろん、この他にもたくさんのエクイティファイナンスの特ダネを書かせて頂いたが、三菱重工のCBは当時の最大の発行額であったことがニュース性を大きくした。スクープした朝、大勢の証券会社の担当者が引受シェアを貰いに三菱重工の発行担当者のもとに駆け込んだものの、あいにく不在であったため、面談希望の証券マンの行列が当時の三菱重工ビルをぐるりと一周したという。おさわがせしました。

また、おかしなスクープは、「スワップ」の解禁。当時、日米円ドル委員会という日米交渉によりさまざまな金融取引が自由化されるなか、スワップ取引が解禁されるということを知りつけて、当時の大蔵省の課長補佐に裏を取りに言ったところ、やはりその通りだという。しかし、次の問題はこれをどのように報道するのかということ。つまり当時はスワップというといわゆる「夫婦交換」という意味にしか使われておらず、新聞の1面トップでデカデカと「スワップ解禁」と報道するのはいかがなものかと躊躇したわけである。しかし、担当補佐曰く「海外ではスワップ取引で通っているから、スワップ解禁と報道するしかない」とのことで、めでたくスクープさせて頂いた。とはいえ、その直後、電車の中で偶然会った大手証券の社員とスワップ解禁の話をした際、他の乗客から白い目で見られたことは言うまでもないが……。